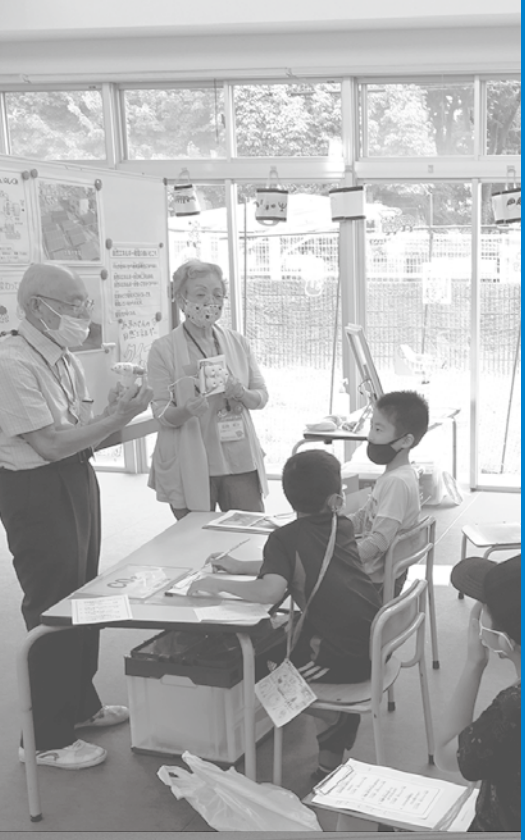


2020

公益財団法人

京都市環境保全活動推進協会事業報告書

公益財団法人

京都市環境保全活動推進協会2020年度事業報告書

●対象期：2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)の事業を中心に、過年度からの継続的な事業や次年度に向けた事業、将来の見通し・予定等について記載しています。

●発行日：2021年10月

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会（以下、「協会」という。）は、2001年2月に設立されました。協会は現在、京都市の環境学習施設である京都市環境保全活動センター（京（みやこ）エコロジーセンター。以下、「エコセン」という。）の指定管理業務等を通して、様々な主体とのパートナーシップにより「持続可能な地域社会の実現」を目指して、事業運営を行っています。

本報告書は多くの方々に事業の内容や、その果たす役割、成果をわかりやすく理解いただくためのツールとして作成しています。

環境保全活動を通して
恵み豊かな景色を
引き継いでいきます。

「持続可能な
地域社会の
実現」を目指して。

千年の都、
京都から未来へ

表紙写真：【右上】えこそらキッズの稲刈りの様子【左上】桂東学区・児童館でのエネルギー学習【中央】オンラインと会場の同時開催ワークショップ「あづま袋をつくろう」【右下】オンラインのエコ料理教室【左下】ラハティ応用科学大学（フィンランド）とZoomで交流

目次

事業実績～数字で見る2020年度～……3
理事長メッセージ……4
特集 ピンチをチャンスに！ ～コロナ禍での取組を紹介～
【事例1】オンラインを活用したボランティア研修とマネジメント……5
【事例2】ワークショップの双方向ライブ配信「あづま袋をつくろう」……7
【事例3】学生がSDGsを実践から学ぶ「みやこKAMADOKIプログラム」……7
【事例4】小学校と大学をオンラインで結びSDGsと防災を考える……8
【事例5】ブラジル等と京都をオンラインで結び海外の環境人材を育成……8
【事例6】エコセン屋上での年間活動「えこそらキッズ」……9
おもな事業内容
・イベントの企画実施……10
・企画展示・連続講座等／さすてな京都……11
・「エコ学区」のサポート……12
・ごみ減量の推進……13
・京のアジェンダ21の推進……14
・講師等の派遣・エコセンで再エネ100％達成……15
発行物一覧……16
事業運営体制・KES……17
沿革……18
中長期計画……19
講師派遣・コンサルテーションのご案内……21
ご寄附について・インフォメーション……22

協会の概要

環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与する

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会は、持続可能な社会（脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会）を実現するため、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与することを目的に設立された法人です。

この目的の達成のために、「環境意識の普及・啓発」、「環境情報の発信」、「環境保全に関する調査・研究」、「環境教育及び人材育成」、「環境保全のための市民・事業者等との連携・支援」、「環境意識の向上のための国際的な連携・支援」、「環境保全活動に関する施設の管理運営」等を、市民・事業者・行政・教育機関とのパートナーシップに基づき行っております。

地域ESD活動推進拠点

ミッション

持続可能な地域社会を築くための活動に参加・参画する人を増やし、人と人、様々な団体をつなげる。

●私たちは、環境ボランティアを始めとした、人材育成講座を中心に展開し、環境保全活動を始めるベースを身に付けた人を増やし、実際に活動の場を提供し、自主的に活動を展開できるスキルを身に付ける支援をします。

●私たちは、活動する場が増えるよう、京都を中心とした地域社会、NGO、事業者、行政、教育機関との連携を密にし、多くの人材が自主的に活動を展開し、個人や団体の活動の輪を拡げることを支援します。

●私たちは、様々な場所で展開される新たな環境保全活動を充実したものにするため、育成した人材が携え、様々な場所で展開されていくようなプログラムを開発します。

●私たちは、多くの場所で環境保全活動が展開されていくために、人材育成・支援、活動の場創り、ソフト開発で得たノウハウ、成果を国内外に発信します。

ビジョン

①京都における環境保全活動に参加・参画する人の輪を広げ、毎年多くの環境人材を輩出しています。

②京都を中心とした地域社会、NGO、事業者、行政、教育機関との連携を密にし、各主体を有機的に結びつける「ハブ」になります。

③活動に活用される環境教育プログラムなどのソフト開発と普及の役割を担っています。

④私たちの活動の成果やノウハウを世界に発信し、国際的にも環境教育・環境保全活動の推進に働きかけられる存在になります。

6つの方向性

①地域社会との連携を深める
②パートナーシップをこれまで以上に
③人材育成
④京都の環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及
⑤環境学習ツール・プログラム開発力の強化
⑥発信力の強化

環境学習・環境保全活動支援事業

京都市の環境学習施設「京エコロジーセンター」指定管理者、「さすてな京都」運営メンバーとして、環境学習プログラムを提供しています。

国際事業

これまでの事業で積み重ねたノウハウを、海外での環境保全活動推進に役立てるため、研修受入や技術移転を行っています。

地域環境活動支援事業

「エコ学区サポートセンター」「京都市ごみ減量推進会議」「京のアジェンダ21フォーラム」の事務局として、地域のエコ活動を支援しています。

講師派遣事業

環境学習、環境をテーマにしたワークショップ、セミナー等へ、当協会の職員を講師として派遣しています。

その他事業

環境学習施設運営やボランティア制度構築をご検討中の方々向けに、運営ノウハウの提供や制度設計のコンサルテーションを行います。

事業実績 ～数字で見る２０２０年度～

コロナ禍で入館者数は前年の６割減となるも、オンライン事業を多数実施

２０２０年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、臨時休館や開館時間の短縮を繰り返した1年でした。

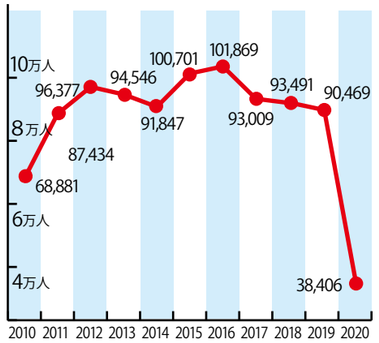
団体見学受入は大幅に減少し、京都市立小学校を対象にしたエコ学習については全て中止。しかし、事業のオンライン化を急いで進め、エコセンの主催イベントはオンライン参加者が４４５名、動画再生回数は１５８１回にのぼり、新たな事業形態を開拓することができました。

■京エコロジーセンターの入館者数

	2010	2011	2012	2013	2014	2015
全体入館数	68,881	87,434	96,377	94,546	91,847	100,701
団体見学	6,714	6,026	5,468	6,104	6,091	5,859
エコ学習	4,013	5,219	5,504	4,949	4,794	3,944
会議室等	5,432	4,987	4,807	4,430	4,359	4,894
一般来館者	52,722	71,202	80,598	79,063	76,603	86,004

	2016	2017	2018	2019	2020
全体入館数	101,869	93,009	93,491	90,469	38,406
団体見学	5,018	5,517	4,920	3,147	922
エコ学習	3,961	4,608	3,383	3,157	0
会議室等	5,114	5,158	4,880	5,998	2,337
一般来館者	87,776	77,726	80,308	78,167	35,147

※各年度3月31日の数値



〈2020年度 主催イベント オンライン 参加者数〉

オンライン	445 名
動画再生	1,581 回

■正味財産増減の状況

（単位：千円）

事業年度	2018	2019	2020
経常収益	210,937	304,466	265,754
経常費用	204,692	247,191	288,175
経常増減	6,244	57,275	- 22,421
経常外収益	0	0	0
経常外費用	0	0	0
正味財産増減	6,244	57,275	- 22,421
資産合計	158,490	192,639	161,247
負債合計	28,505	42,378	33,407
正味財産	129,985	150,260	127,839

持続可能な組織経営を目指して

当協会は、営利を目的としない公益財団法人として事業を実施しています。

現状では、京都市委託収入が大半を占めますが、持続可能な組織経営に向けて、新たな事業展開にも挑戦していきます。

■環境ボランティア登録者数の推移

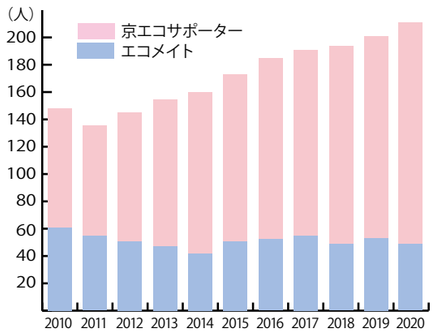
登録者	2010	2011	2012	2013	2014	2015
エコメイト	61	55	51	47	42	51
京エコサポーター	87	81	94	108	118	122
合計	148	136	145	155	160	173

登録者	2016	2017	2018	2019	2020
エコメイト	52	55	49	53	49
京エコサポーター	133	136	145	148	162
合計	185	191	194	201	211

※各年度4月1日の数値

２００名以上が環境ボランティアに登録

エコセンの特徴の一つは環境ボランティアの存在。人が介在する魅力的な展示・施設を目指しています。２０２０年度の登録者数は２１１名。自ら環境に配慮した暮らしを実践するボランティアが、来館者を温かくご案内しています。



エコメイト：
エコセン館内で展示解説・自主企画等を行う（任期3年間）

京エコサポーター：
任期終了後、エコメイトの支援・地域イベント出展等を行う

■地域環境活動に参加された人数

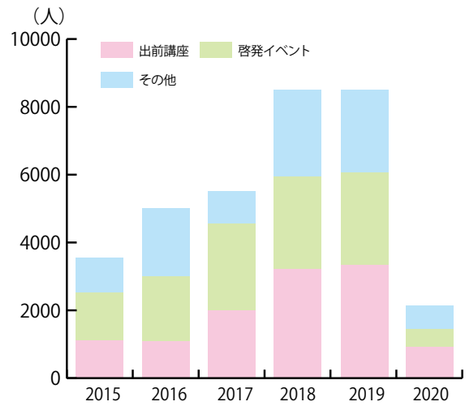
	出前講座	啓発イベント	その他	合　計
	参加人数	参加人数	参加人数	参加人数
2015	1,109	1,407	1,050	3,566
2016	1,080	1,923	1,999	5,002
2017	1,993	2,556	977	5,526
2018	3,212	2,731	2,567	8,510
2019	3,444	2,668	2,567	8,339
2020	978	533	684	2,195

※協会主催イベントを含む　※各年度3月31日の数値

職員や環境ボランティアが地域に出向いて、出前講座などを開催

当協会では、地域のエコ活動を支援しています。

２０２０年度は、コロナ禍により多くの地域イベントが中止になりましたが、要望をいただいた学区で出前講座を開いたり、地域住民の方々と「緑のカーテン育成」「フードドライブ（不要食品回収）」「家庭の省エネ実践」「小学校でのＳＤＧｓ授業」等に取り組みました。



理事長メッセージ

多様化するエコセン活動

理事長プロフィール

京都大学名誉教授。専門は廃棄物管理。主な著書に『ごみ問題とライフスタイル』（日本評論社）、『エコロジーテスト』（講談社）、『有害廃棄物』（中央法規）、『現代環境論』（有斐閣）等。

ハイムーンのペンネームで、環境・廃棄物問題を訴える漫画家として日本漫画家協会に所属。国内を始め、イギリス・中国・インドネシア・マレーシアでも個展を開催。漫画家としての著書に『ゴミック「廃貴物」』第１～８集（日報）、『絵コロジー』（合同出版）、『まんがで学ぶエコロジー』（昭和堂）等がある。

公益財団法人
京都市環境保全活動推進協会
前理事長 高月　紘　（※）

２０２０年の当協会の活動は、コロナの影響で従来の活動がかなり制限されました。しかしながら、協会の職員の努力によって、オンラインによる活動が色々と試みられ、今までにない成果が得られました。

すなわち、これまでエコロジーセンターとつながりが薄かった地方の方々や海外の人との交流の機会が持てて、それなりの活動の幅が広がりました。また、オンライン上でグループディスカッションなども可能となり、参加者からもこれまでにない好評の声も得ることができました。

このように、コロナ禍の中ではありますが、エコロジーセンターを中心とした協会の活動は、従来の対面による活動に加えて、オンラインによる活動をプラスすることに多様性が増してきました。さらに、昨年度からはアジェンダ、ごみ減の活動が加わり、そしてＪＩＣＡを通しての海外との交流、「エコ学区」活動などによる地域との連携など協会の事業はますます多様化しつつあります。

生物多様性ではありませんが、多様性が増すことによって、生態系が安定するように当協会の基盤が安定することを望んでおります。

※ 2021 年 7 月 1 日付で理事長が高月紘から新川達郎に交代しました。

特集

ピンチをチャンスに！ ～コロナ禍での取組を紹介～

２０２０年度は、イベントからミーティングに至るまで、オンラインを活用しながら乗り越えた1年間となりました。

講座やイベントの開催にあたっては、リアルタイム配信やオンデマンド配信を数多く実践しました。

職員がエコセンから、イベントをリアルタイム配信している様子

また、対面で実施するイベントについても、定員を減らしたり、小グループに分けて開催したり、３密を防ぐためのさまざまな工夫を行いました。

当協会で実際に取り組んだ６つの事例についてご紹介します。

事例１ オンラインを活用した ボランティア研修とマネジメント

エコセンの大きな特徴は、環境ボランティア（エコメイト）の存在。館内の展示・設備の解説や自主企画の実施等を担うエコメイトは、エコセン運営になくてはならない存在であり、開館以来毎年募集をし、職員が年間を通じた活動のコーディネーションを行っています。

２０２０年度は、緊急事態宣言による臨時休館で幕が開き、ボランティアの皆さんは原則として、６月まで館内で活動することができませんでした。そうした中、事務局では、オンラインでのミーティングや研修を準備しました。

館内案内等の研修動画を作成してＹｏｕＴｕｂｅにアップロードするため、職員たちはビデオカメラでプレゼン動画を作成し、動画作成ソフトで編集する毎日が続きました。

臨時休館が明けた後は、館内での活動や研修を再開しましたが、公共交通機関の利用等を懸念される方もいらっしゃることから、並行してオンラインも活用していきました。「マネジメントの会」でボランティア同士が意見交換する際には、館内で直接意見交換をするのと並行して、オンライン参加のメンバーがＺｏｏｍで意見交換をしました。ボランティアのオンラインでの活動参加にあたり、職員が電話でパソコンの操作方法を説明する等のフォローを行いました。

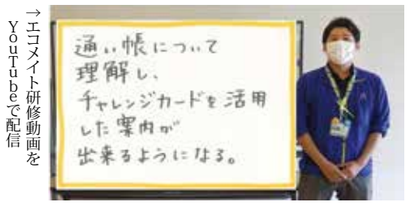
エコメイト養成講座は全６回を実施し、第２～５回の講座はオンラインとなり、実習は中止となりましたが、受講者一人ひとりから個別にお話を伺い、活動への不安や疑問を取り除く機会を設けました。養成講座修了者19名が、新規エコメイト（21期）として登録することになりました。

↑新規エコメイト養成講座を修了した21期の皆さん

↑ボランティア自主企画イベント「うちごみ相談所」(8/22)。会場にはスクリーンを配置し、来場者の検温・消毒を徹底した

↑オンライン参加者の意見を職員がまとめる様子

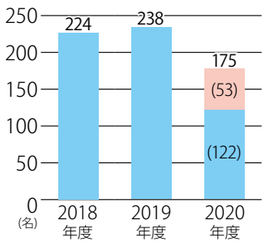
↑会場とオンラインを並行で、京都と屋久島の森林についてボランティア研修を実施



↑エコメイト研修動画をＹｏｕＴｕｂｅで配信

↑Ｚｏｏｍによるボランティアミーティング

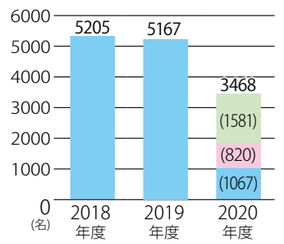
◇ボランティア研修参加延べ人数



↑2020年度は、ボランティア研修参加者の約3分の1がオンラインによる参加であった。
2018、2019年度は8回実施。
2020年度は6回実施。

対面　オンライン

◇イベント・講座等参加人数



オンライン実施（オンデマンド配信／再生回数）
オンライン実施（リアルタイム配信）
来館実施

◇マネジメントの会

4/5	登録証授与式〈対象〉エコメイト20期	9人
5/23	グループ代表者会議〈対象〉エコメイト、京エコサポーター	9人
7/5	スタートアップの会〈対象〉エコメイト	17人（来館9、配信8）
9/13	エコメイト交流会〈対象〉エコメイト	13人（来館10、配信3）
12/19	ボランティア全体ミーティング〈対象〉エコメイト、京エコサポーター	26人（来館23、配信3）
3/21	年間ふりかえりの会〈対象〉エコメイト	16人（来館8、配信8）
3/21	修了証授与式〈対象〉エコメイト 18 期	9人

◇ボランティア研修

第1回	6/6	エコセンの設備を知ろう	動画配信
第2回	7/11	館内案内ツール	動画配信
第3回	8/30	水	27人（来館 20、配信 7）
第4回	9/27	ごみ	34人（来館 27、配信 7）
第5回	10/24	電気	32人（来館 27、配信 5）
第6回	11/14	木	29人（来館 24、配信 5）
第7回	12/13	海洋プラスチック	32人（来館 24、配信 8）
第8回	1/16	地球温暖化	21人

◇ボランティア自主企画

8/16、8/20	私たちのくらしとプラスチックごみ 登録グループ「イベントグループ」	29人
8/22	うちごみ相談所 ワーキンググループ「うちごみ相談所」	15人
2/14	ライトの光で動く！クワガタサッカーゲームに挑戦！ 登録グループ「エコエネクラブ」	中止
2/21	楽しく学んで地球温だん化をふせごう！ 登録グループ「イベントグループ」	中止
10/27～11/28	ボランティア推薦図書特別展示読書週間 POP 展 登録グループ「図書グループ」	―

◇新規エコメイト養成講座

第1回	1/10	エコセン・ボランティアきほんのき	16人（来館 13、配信 3）
第2回	1/17	環境問題・環境学習きほんのき	14 人
第3回	1/23	展示・コミュニケーションきほんのき	17 人
第4回	1/30	環境学習プログラムきほんのき	16 人
第5回	2/10	実習オリエンテーション	9 人
	2/13	実習オリエンテーション	8 人
	2/15～3/6	個人面談	14 人
第6回	3/7	講座のふりかえり＆登録説明会	14 人（来館 12、配信 2）

■は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
■は来館実施。　■はリアルタイム配信。　■はオンデマンド配信。　■は来館実施と配信を並行開催。

事例 2
ワークショップの双方向ライブ配信「あづま袋をつくろう」

1月9日、「貼るだけ完成！簡単エコバッグ！あづま袋を作ろう」を、エコセン会場とオンラインで同時開催しました。講師は「京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会」と同志社大学小谷ゼミからなる「同志社えこずクラブ」が務めました。

あづま袋とは、1枚の布を2ヶ所まっすぐ縫い合わせ袋型にしたもの。今回は講師の考案で、子どもが作りやすいよう、縫うのではなく貼り合わせて作ることにしました。

製作に入る前には、事前配布した○×の札を使い学生によるごみ問題クイズを実施。製作時は、学生がオンライン参加者に対し、紙の模型を使って画面越しにレクチャーしました。

オンラインは京都市外からの申込も多くキャンセル待ちに！計51名が参加し、「作り方がとてもわかりやすかった」という声を多数いただき、工夫した成果を実感することができました。

こちらで作り方を公開中です（動画あり）
https://kyoto-gomigen.jp/works/250.html

↑会場では「めぐるくん」メンバーが、参加者と直接コミュニケーションをとりながら丁寧に指導した

↑完成したあづま袋を持って、会場とオンラインと一緒に記念写真

↑オンラインでサポートする様子

↑会場とオンラインが一緒にクイズを楽しんだ

事例 3
学生がSDGsを実践的に学ぶ「みやこKAMADOKIプログラム」

このプログラムは、学生がSDGsを達成するためのマインドとスキルを身につける連続講座です（文部科学省「令和2年度ユネスコ活動費補助金SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業」）。

記事づくりに挑戦する「SDGsスタジオ」と企業等に企画提案する「SDGsアクト」の2コースと、共通講座「SDGsシンカゼミ」があり、21名が参加。

「スタジオ」では学生たちが新聞記者からプロのスキルを学び、7団体を取材して、16ページの冊子を作成。「アクト」では、パブリック・ローカル・ビジネス・エコロジーの4コースに分かれ、受入先との打ち合わせの後にSDGs事業を企画立案。プロジェクトの最後には、両コースの関係者全員で発表会を開催しました。

今年度はコロナ禍のため、大半をオンラインで実施。受講生からは「個人作業が多かった」「対面でやりたかった」といった感想が寄せられましたが、少人数での取材等は対面で受け入れていただき、学生が「仕事の現場」を感じ取る機会を提供できました。

↑「SDGsスタジオ」の成果はこちら
https://kamadoki.net/archives/460

↑「SDGsアクト」の成果はこちら
https://kamadoki.net/archives/469

◇みやこKAMADOKIプログラム

8/23	キックオフイベント	34人
8/29	SDGs スタジオ「SDGs レクチャー」	3人
9/5	SDGs スタジオ「取材から発信までの手順を知る」	4人
9/19	SDGs スタジオ「 記事の添削・修正」	7人
9/20	SDGs シンカゼミ「SDGs を活用した活動整理術」	14人
9/23	SDGs アクトオリエンテーション【会場：エコセン】	15人
10/9	SDGs スタジオ成果報告会	280人
10/14	SDGs シンカゼミ「ストーリーを伝える」	7人
10/25	SDGs シンカゼミ「自分の可能性をみつける」	10人
11/1	SDGs アクト企画提案発表会	26人
2/6	ステークホルダー交流会	16人

■は来館実施　■はリアルタイム配信

↑ 8/23 キックオフイベントをオンラインで開催

↑ SDGsアクト・ビジネスコースで（株）イワタを訪問

事例 4
小学校と大学をオンラインで結びSDGsと防災を考える

当協会の事業の柱の1つが「地域における環境学習・環境活動の支援」。2020年度は、上高野小（左京区）と京都大・浅利美鈴准教授の研究室をZoomで結び、授業を実施しました。

4年生は、地元で起こりうる災害について学んだ後、第1回オンライン授業でSDGsを学習。第2回オンライン授業では、「災害に強いまちづくり」「災害ごみの問題」「災害と生き物の命」等の6グループに分かれ、講師に教えてもらいながらポスターを作成・発表しました。3年生は、「私の好きな上高野ノート」をまとめた後、オンライン授業で「自然」「歴史」「人との暮らし」の3グループに分かれ、上高野の魅力を守るため「自分でできること」「地域の大人に協力してほしいこと」を発表。その後、学習内容をチラシにまとめ、回覧板で学区住民の皆さんに見ていただきました。

小学校にとっては初の遠隔授業。音声の途切れ等不具合も発生しましたが、児童が地域のことを考え、専門家のサポートで理解を深め、地域住民に発信する機会を創出できました。

↑ 4年生は、テレビ画面越しに浅利先生からSDGｓを学び、夏休み中に「SDGsノート」をまとめた

↑ 3年生がグループごとに、タブレットを通じて講師に質問している様子

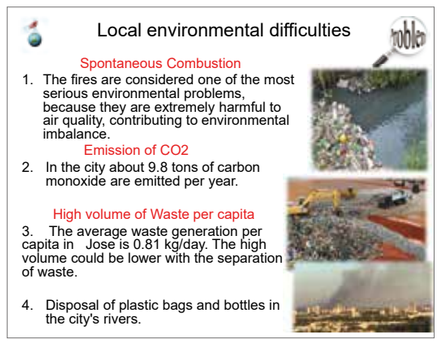
↑Zoomで結ばれた京都大学の研究室と上高野小学校

事例 5
ブラジル等と京都をオンラインで結び海外の環境人材を育成

当協会では例年、海外の行政職員等を迎え、環境教育や廃棄物管理等について1～2ヶ月に渡る研修プログラムを実施しています。2020年度はコロナ禍で研修員が訪日できなかったため、オンライン研修を行いました。

JICA日系研修「環境教育リーダー養成研修（都市型環境教育）」では、1月11日から3月1日までブラジル人1名を遠隔で受け入れました。オリエンテーションと最終報告会はZoomで行い、講義については、作成した動画教材を視聴してもらうオンデマンド形式で実施し、質問には随時メール等で対応しました。

JICA課題別研修「循環型社会構築のための固型廃棄物管理」は、開始が後ろ倒しとなったため、2021年度にかけて実施中です。ブラジルから3名、モザンビークから2名を受け入れ、日本の廃棄物管理、京都市や民間の取組等について、オンデマンド形式で研修を進めています。



↑研修員が作成した、川のごみの滞留量と3R・分別回収についてのプレゼンテーション資料

↑ブラジルと日本をZoomで結び、ブラジル人研修員に対し、環境教育リーダー養成研修を実施

事例 6　エコセン屋上での年間活動
えこそらキッズ

「えこそらキッズ」は、小学1～4年生とその家族を対象にした年間継続プログラムで、2020年に15年目を迎えました。

このプログラムでは年間を通じ、エコセン屋上の田畑やビオトープ等をフィールドに、田植えや種まき、生き物の観察等に取り組みます。そして育てた作物を染め物に使ったり、調理して食べることで、【自然の恵みや循環】【暮らしと自然とのつながり】に気づいてもらい、環境に配慮した暮らしをするきっかけを提供しています。

2020年度は31名が登録し、年間13件の活動を実施。コロナ禍のため、4～5月の活動が中止になり、夏野菜の植え付けと田植えの一部を職員が行いましたが、例年と同じ学びが提供できるよう、プログラムを変更する等工夫しました。6月以降は、感染防止対策を行いながら、参加者親子とエコセンボランティアや大学生ボランティアが活動。最後には、毎回の活動を1つにまとめる絵巻をつくり、発表会を開催しました。

3密を避けるため、小グループに分けて、時間帯をずらして活動したり、調理の回では広い場所で食事をする等、さまざまな工夫を行いました。

職員・ボランティアともに手探りの中、試行錯誤の連続でしたが、ボランティアからは「少人数制なので、子どもたちとじっくり関わることができてよかった」という声も。

子どもたちの積極的な参加のおかげで充実した活動となり、最終回には素晴らしい絵巻が完成！保護者からは、「大切に野菜を食べるようになった」「家での環境へのことを話すようになった」というううれしい感想も聞かれました。

このように2020年度は、当協会の各事業において、安心安全に配慮した取組を進めてまいりました。

それは、設立以来19年間培ってきた活発な環境保全活動を止めないための挑戦だったといえます。「連携」と「パートナーシップ」は当協会の運営の根幹であり、制限された中で工夫をし、技術を使い、どうやって「つながり続けるか」を試し続けた1年間でした。

「ピンチをチャンスに」という言葉がありますが、この1年間で得たノウハウは、今後も継続するであろうウィズコロナ社会で、環境学習や環境人材育成を続けるために生きてくると確信しています。

↑屋上ですくすく育った夏野菜。どんなお料理ができるかな？

↑6/20 屋上での田植えの様子

↑緊急事態宣言が明けた6月、ようやくボランティアとスタッフミーティングを開催

↑緊急事態宣言下の5月、田んぼの半分に、職員で田植えを実施

↑3/13 年間活動をまとめた「絵巻」を製作

↑大学生ボランティアも子どもたちをサポート

↑9/26 黄金色に色づいた田んぼで稲刈り

◇ えこそらキッズ2020 実施内容

第1回	5/16 オープニング（アイスブレーク・緑のカーテン・夏野菜植付）	〈中止〉
第2回	5/30 田植え・夏野菜植付・玉ねぎ収穫・かかし設計	〈中止〉
第3回	6/20 オープニング（アイスブレーク）・田植え・野菜のお世話	29人
第4回	7/18 収穫・野菜のお世話・生きもの観察	22人
第5回	8/ 8 収穫・野菜のお世話・藍染	27人
第6回	8/29 収穫・冬野菜種まき	20人
第7回	9/12 カーテン片づけ・野菜のお世話・冬野菜植付	29人
第8回	9/26 稲刈り・落花生収穫	30人
第9回	10/17 野菜のお世話・草刈・芋ほり・稲刈り	16人
第10回	10/31 野菜のお世話・脱穀・もみすり	20人
第11回	11/21 食に関するゲーム・絵巻準備	23人
第12回	12/ 5 クッキング　12/12 クッキング	27人
第13回	1/ 9 絵巻づくり	24人
第14回	3/13 発表・ふりかえり	27人

おもな事業内容

イベントの企画実施

環境に配慮したライフスタイル実践のきっかけをつくるため、年間31件のイベントを実施。大人数の対面イベントが実施できない中、YouTubeに動画をアップロードするオンデマンド配信、Zoomで配信するリアルタイム配信等、積極的にオンライン化に取り組みました。

毎年1回程度開催し1000人以上の参加者を集めてきた「全館イベント」は、「12月月間イベント」に切り替え、生物多様性をテーマにした5つの企画を「学ぶ！つながる！生きもののススメ」として開催。オンデマンド配信で野鳥観察、リアルタイム配信で魚の観察、オンラインと来館を選んで参加できる工作と講演会を実施しました。

↑ 12/6「生きものカレンダー作り」YouTube画面

↑ 11/15「昆虫食からみた地球温暖化」

↑ 8/23「木っていいね！京都の木を使って工作しよう」

◇主催イベント　件数／31件　参加者数／来館延べ461名・オンライン延べ445名・動画再生1,581回

日程	タイトル	講師	人数
4／下旬	京エコロジーセンター18周年記念イベント		中止
5／10	みつろうラップをつくろう	Biwabochi Beeswax Wrap	中止
5／17	お片づけでえーことはじめよか♪	ecoto 京都（共同主催）	中止
6／21	映画「できる ―セ・ポシブル」上映会		中止
6／下旬	都市鉱山でつくる！オリジナルシルバーペンダント	小島朗子 氏 アートクレイ倶楽部	中止
7／3～8／23	エコセンスタッフとやってみよう！新聞バッグづくり	エコセンスタッフ	649（再生回数）
7／22～8／23	エコセンスタッフとやってみよう！牛乳パックパズルづくり	エコセンスタッフ	404（再生回数）
7／26	映画「ワールドエンド！フィニーとノアの箱舟」上映会		中止
8／2	いきもの探偵団	エコセンスタッフ	29
8／5	カレットアート体験	宝酒造（株）	中止
8／5～8／19	親子で竹紙すきにチャレンジ！	京都竹カフェ（共同主催）	130
8／7～8／21	スプーンとフォークが合体!?スポークづくり～ごみになるものを減らして、自分のお気に入りを使おう！～	エコセンスタッフ	60
8／10	こどもクッキング教室～自分でつくるカンタンごはん～	京都こどもクッキング管理栄養士	27
8／15	読み聞かせとアートで学ぼう！はじめてのSDGs	朝日仁美 氏 絵本でSDGs推進協会 石橋幸子 氏 アトリエ・Petata	36
8／23	木っていいね！京都の木を使って工作しよう	前田清二 氏 京都府森林組合連合会 井澤佑真 氏 京都ペレット町家ヒノコ	71
9／6	雲のみわけかた～雲を知って、お天気博士になろう～	日本気象予報士会関西支部 楽しいお天気講座	34
9／27	簡単リメイクをしてみよう～いらない服が子どものお気に入りに大変身！～	柴田禎人 氏 縫製工房 虹夢	8
10／4	みつろうラップをつくろう	Biwabochi Beeswax Wrap	23
10／25、11／8、11／15	連続講座 昆虫食からみた地球温暖化	内山昭一 氏 (NPO)昆虫食普及ネットワーク理事長 (株)昆虫食のentomo	55
11／1	野菜でハロウィンスイーツを作ろう！	川口かな江 氏 料理教室 Kitchen Ciao!	18
11／7	使わなくなった布を使ってエコバッグをつくろう	京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会	47
11／23	カカオ豆からチョコレートを作ろう	DariK（株）	18
11／28	親子でせっけん作り～人と地球にやさしく過ごそう～	杉江香代子 氏 enSeisui 代表	23
12／1～12／27	2021年 生きものカレンダー作り	石橋幸子 氏 アトリエ Petata	148（再生回数）
12／5～12／27	大人の野鳥観察会	寺田綾乃 氏 日本野鳥の会京都支部	149（再生回数）
12／6	2021年 生きものカレンダー作り	石橋幸子 氏 アトリエ Petata	39
12／13	身近な食材で実験！魚のしくみを知ろう	ふなばし三番瀬環境学習館（共同主催）	39
12／20	小さな生きものを見てみよう！砂の中から貝殻さがし」	（公社）大阪自然環境保全協会	97
12／27（1/10～1/31オンデマンド配信）	講演会「脅かされる植物」	中静透 氏 国立研究開発法人森林研究・整備機構 理事長	272（来館11、配信30、再生回数231）
1／9	簡単エコバッグ！あづま袋を作ろう	同志社えこずクラブ、京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会（共同主催）	51（来館15、配信36）
2／7	講演会「地球温暖化の今」	塩竈秀夫 氏 国立環境研究所地球環境研究センター気候変動リスク評価研究室室長 田浦健朗 氏 気候ネットワーク事務局長	38
3／28	講演会「CO_2 排出ゼロから見る再生可能エネルギーとは」	三宅成也 氏 みんな電力（株）専務取締役	22（来館7、配信15）

「月間イベント「学ぶ！つながる！生きもののススメ」」

■は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
■は来館実施。　■はリアルタイム配信。　■はオンデマンド配信。
■は来館実施と配信を並行開催。

企画展示・連続講座等

9件の企画展示を開催しました。企画にあたっては、

①「2050年までに二酸化炭素排出量正味ゼロ」を目指すために必要な取組の紹介等、社会の情勢・状況に沿った内容の提供

②主催のみならず、他団体との共同主催型も積極的に実施すること

を目指しました。

環境保全活動のリーダー層を養成する連続講座として、**「自然エネルギー学校・京都2020」「環境活動パワーアップ講座2020」**を実施。前者はオンラインでの開催となりました。

大学生の環境活動支援として、「みやこKAMADOKIプログラム」（P7参照）より大学生3名、高校生1名を受け入れ、脱炭素社会実現に向けた大学生対象のイベントの企画提案を行いました。その後2名はインターン生として引き続きエコセンで活動し、10月から受け入れた大学生を含め計3名が活動。各自、関心のあるテーマについてイベントを開催できるよう、支援しました。

↑10/2～12/6企画展示「環境教育の環（わ）」

↑インターン生企画「竹パウダーコンポスト作り」

◇企画展示（件数：9件）

4/8～4/29	世界のこども環境絵画展【中止】
5/1～5/17	「整理収納アドバイザー」が伝えるお片づけからはじまるエコな暮らし（共催：ecoto 京都）【中止】
7/4～9/27	「意識と行動」展
8/11～8/21	農業・農村のもつ大切な役割～農業・農村の多面的機能の紹介～（共催：近畿農政局）
10/2～12/6	環境教育の環（わ）（共催：JICA 関西）
11/1～11/30	お家でもはじめよう！再生可能エネルギー 100%展（主催：当協会）
11/13～12/16	2021 年版 環境カレンダー 原画展（協力：日本環境保護国際交流会 J.E.E.）
12/8～1/11	みやこ KAMADOKI 展（共催：京都・関西 SDGs ネットワーク―みやこ KAMADOKI プログラム―実行委員会）
1/15～3/31	その服ってサステナブル？～人と地球にやさしいオシャレとは～
2/1～2/28	美しい鴨川を子どもたちにのこそう（共催:鴨川を美しくする会、(一社）鴨川流域ネットワーク）
3/8～3/19	令和２年度「まちかど生きもの観察記」受賞作品の展示（共催:京都市環境政策局環境企画部環境管理課）

■は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

◇企画展示関連イベント（件数：3件）

11/29	環境教育の環（わ） 講師 元青年海外協力隊 田中美佳 氏 エルサルバドル派遣、城戸大樹 氏 東ティモール派遣、田中翔子 氏 フィジー派遣	23 人
12/5	ありがとう、環境カレンダー～30年の日々をめくって～ 講師 高月紘 氏 エコセン館長、細木京子 氏 J.E.E.	15 人
1/24	エコ×ファッション～あなたに知ってほしいファッションのお話～ 講師 成実弘至 氏 京都女子大学教授・水野泰平 氏 （有）シサム工房代表取締役	30 人

■は来館実施。
■はリアルタイム配信。

◇インターン生企画イベント

3/6	簡単おしゃれに竹パウダーコンポスト作り 講師 木下有日子 氏 ひと・杜・暮らし あまがえる	17 人
3/7	えねるぎぃから四方よし！ 講師 竹本了悟 氏 TERA Energy（株）	9 人
3/27	Let's きらきら ～ごみから生まれる、千年宝物づくり～ 講師 山崎姫菜子 氏 和田佑梨香 氏 sobolon	10 人

◇自然エネルギー学校・京都2020

第1回	6/27	自然エネルギー 100%を目指す世界の動向	22 人
第2回	7/11	企業でできる？！自然エネルギー 100%	19 人
第3回	8/1	自宅でできる？！自然エネルギー 100%	18 人
第4回	9/12	地域でできる？！自然エネルギー 100%	17 人
第5回	9/26	自然エネルギー 100%を目指す地域のオンライン視察	17 人

◇環境活動パワーアップ講座2020

第1回	10/10	私（達）は、何を問題だと思い、どのように変えたいのかじっくり考え伝えてみよう	8 人
第2回	10/18	仲間と一緒に思いをカタチにする力をつけよう	7 人
第3回	11/7	私（達）はどんな力があるのか 様々なつながりを考えてネットワークを広げよう	7 人
第4回	11/28	活動を企画する力を高める いろいろな立場の人と協働しよう	5 人
第5回	12/12、12/13	私（達）はこれから何をするのか。考え、伝え、多くの人にも呼びかけよう	8 人

さすてな京都

2019年、京都市南部クリーンセンター第二工場に、世界最先端の環境技術等を学べる環境学習施設としてオープン。当協会は、この施設の運営コンソーシアムの一員として参画しています。

2020年度は、コロナ禍のため4～6月が休館となり、約90校の京都市4年生の小学校見学が中止に。代替として、動画学習コンテンツを提供しました。

再開館後の6月からは、団体ツアーや学習プログラムを再開。伏見区環境学習拠点3施設が連携し、土日祝日に竹田駅・青少年科学センター・エコセン経由でシャトルバスの運行が始まりました。

10月には開館記念イベント「さすてな☆秋のエコまつり」、3月には「さすてな☆春のSDGsウィーク」を開催しました。

さすてな京都 来館者数	10,318人
動画視聴数	2,341回
団体ツアー 回数・参加者数	96 組 965 人
子ども学習プログラム 実施回数・参加者数	95 回 1,493 人（大人 659 人、子ども 810 人）
生涯学習講座 実施回数・参加者数	16 回 249 人（大人 239 人、子ども 10 人）

「エコ学区」のサポート

元学区を単位とする222の地域コミュニティでエコ活動を促進することにより、環境にやさしいライフスタイルへの転換と、家庭部門でのCO_2排出量削減を目指す「エコ学区事業」。

当協会は京都市と協働し、2013年に「エコ学区サポートセンター」を開設し、以降エコ活動の相談窓口として学区を支援しています。

2020年度は、コロナ禍により多くの学区で地域活動が中止・延期に。そのような中でも、1年間で1200回以上、学区へのヒアリング・取材・相談対応などを行い、これまで育んできた地域活動・エコ活動がコロナ禍においても存続するよう、尽力しました。

対面での学習会等が難しい場合は、家庭で取り組めるCO_2削減・省エネ対策を説明する資料を地域に配布し、アンケートを回収するといった方法により、啓発活動を実施しました。

↑12/22 伏見区 淀学区 学習会「ロケットストーブをつくろう」（水垂会館）

↑11/5 山科区 西野学区 ブース型学習会「ぐー・ちょき・ぱーでエコクイズ」（西野児童館）

◇ブース出展（学区数：9学区）

日程	学区	内容	会場	人数
9/23	朱雀第三	ビオトープ緑化とカーボンニュートラル	朱雀第三小学校	84
11/1	醒泉	災害時に使える再エネグッズ紹介ブース	下京雅小学校	15
11/2	竹の里	環境啓発冊子の配布と説明	竹の里小学校	12
11/8	紫竹	こども発電体験	紫竹小学校	116
11/11	有隣	あなたのごみ分別あってますか？	元有隣小学校	15
11/28	宇多野	環境啓発冊子の配布と説明	うたの・ひこばえ児童館	50
1/29	広沢	環境啓発冊子の配布と説明	嵯峨広沢児童館	100
2/11	葛野	あなたのごみ分別あっていますか？	午塚公園	79
3/4	嵯峨	あなたのごみ分別あっていますか？	愛宕神社御旅所	62

◇学習会（学区数：18学区）

日程	学区	内容	会場	人数
7/4	柊　野	プラスチックと地球環境問題	柊野小学校	8
8/26	西　野	子どもたちが外で遊べなくなる日	西野公会堂	8
9/26	滋　野	家庭でできる省エネ	滋野会館	7
10/20	正　親	ヒートショックに気をつけて	正親福祉会館	15
11/1	元　町	元町エコ動画学習会	学区限定配信	—
11/6	南大内	環境啓発冊子の配布と説明	個人宅	25
11/20	宇多野	環境啓発冊子の配布と説明	個人宅	65
11/25	龍　池	環境啓発冊子の配布と説明	個人宅	90
11/27	深　草	環境啓発冊子の配布と説明	エコセン	74
12/2	成　逸	環境啓発冊子の配布と説明	個人宅	30
12/7	羽束師	環境啓発冊子の配布と説明	個人宅	30
12/8	紫　竹	環境啓発冊子の配布と説明	紫竹小学校	29
12/15	祥　栄	環境啓発冊子の配布と説明	個人宅	30
12/18	広　沢	環境啓発冊子の配布と説明	広沢小学校	21
12/22	淀	ロケットストーブをつくろう！	水垂会館	18
12/26	東梅逕	環境啓発冊子の配布と説明	BANISTAR KYOTO	4
12/31	銅　駝	エコ動画学習会	銅駝自治連合会 HP	—
3/24	桂　東	ごみ分別＆水素自動車	桂東児童館	36

◇ブース型学習会（学区数：16学区）

日程	学区	内容	会場	人数
7/18	桂　東	電気は楽して作ろう！	桂東児童館	68
10/1	銅　駝	高瀬川のホタル自生活動	御所東小学校	45
10/13	元　町	フードドライブ	元町小学校	13
10/16	久　我	ぐー・ちょき・ぱーでエコクイズ	久我自治連合会館	21
10/24	待　賢	天災は突然やってくる	元待賢小学校	15
11/5	西　野	ぐー・ちょき・ぱーでエコクイズ	西野児童館	47
11/8	滋　野	省エネライフ	京都市動物園	50
11/21	深　草	環境啓発冊子の配布と説明	深草小学校	10
11/22	羽束師	コロナ禍・災害発生時のエコ料理	羽束師小学校	33
12/16	祥　栄	わくわく自然エネルギー発電体験	祥栄児童館	15
12/23	大　原	わくわく自然エネルギー発電体験	京都大原学院	41
1/22	日　彰	環境啓発冊子の配布と説明	個人宅	10
1/23	錦林東山	エコ工作	白川児童館	22
1/25	川岡東	環境啓発冊子の配布と説明	個人宅	30
1/26	宕　陰	環境啓発冊子の配布と説明	宕陰出張所	60
2/6	柊　野	コロナ禍の省エネライフ	柊野小学校	8

◇京エコライフプログラム（学区数：3学区）

学区	タイトル	内容
安朱	地域で取り組む SDGs と省エネ生活	地域の大人向けに省エネ学習会を、安朱小で SDGs 学習会を行い、大人と子どもそれぞれの取組と成果を 1 つの広報紙にまとめて、地域内に配布した。
御室	子ども省エネプロジェクト	御室小 5 年生が家電の消費電力調査を行い節電アイデア発表。地域がグッドアイデア賞を表彰し、学区内の駅に児童が作成した啓発ポスターを掲示した。
乾隆	快適でエコな居場所づくり	学区内の幼稚園と地域で「洛いも」グリーンカーテンの栽培に取り組み、収穫物でエコ料理（余熱調理・太陽熱調理）の学習会を行った。

◇エコ学区ステップアッププログラム（学区数：4学区）

学区	タイトル	内容
久我の杜	食×エコ	フードマイレージ、生ごみ堆肥化など食と環境に関わるテーマの連続学習会を行い、地域でフードドライブ（不要食品回収）を実施した。
上高野	子どもが考える「安心安全なまち上高野」	上高野小と京都大学をオンラインで結び、子どもたちが SDGs・防災・環境について学び、地域活動につなげるための協議・広報を行った。
新林	竹を使ったコミュニティづくり	地域住民が竹の生態調査や工作ワークショップを実施し、防災再エネグッズを紹介し、災害に強い地域づくりに備える機会を持った。
上京区	地域で始めようエコ生活	京都市の 2050 年 CO_2 排出量正味ゼロの達成に向け、地域でどのような取組ができるか住民同士が話し合う機会を設けた。

ごみ減量の推進

当協会は「京都市ごみ減量推進会議」の事務局を担っています。同会議は、市民団体・事業者・京都市等が対等に参画するパートナーシップ団体。「普及啓発」「ごみ減量事業化」「地域活動」「２Ｒ型エコタウン構築」の４つの部会に分かれて活動しています。

２０２０年度、普及啓発イベントは、コロナ禍のためオンライン活用を積極的に取り入れたり、こども向け講座は、学年で時間帯を分ける等、密にならないよう開催しました。

ごみ減量事業化の取組としては、

・学校給食の学乳パックをトイレットペーパー原料に再生（年１０５トン回収）
・ごみ減量活動への助成金交付（８件・計２８０万円）
・秘密書類リサイクル（年９７２トン回収）

等を実施しました。

地域活動については、京都市内に２０５団体ある「地域ごみ減量推進会議」の活動を支援。

２Ｒ型エコタウン構築については、「ごみ減の環境人づくり事業」「ごみ減の食品ロス情報サイト」といったウェブサイトを作成・公開しました。

↑ 9/5 企業向け講座「食べ物を捨てたくない」

↑あづま袋ワークショップ準備の様子

←「ごみ減の食品ごみ情報サイト」は、食品ロスに関して、背景や海外の取組の他、雑学的な情報を多く掲載しています

←「ごみ減の環境人づくりサイト」は、各地で実施されている「人づくり講座」などの取組の他、プラごみ情報を掲載しています。

◇ ごみ減量啓発イベント　出展イベント

（件数：12 件　参加者数：897 名、内視聴数 462 名）※視聴数は2021年3月31日時点

6/27	レジ袋有料化とごみ減量の啓発　会場 パセオダイゴロー	80 人
6/30	レジ袋有料化とごみ減量の啓発　会場 ラクト山科	120 人
7/13	レジ袋有料化とごみ減量の啓発　会場 第一生命六地蔵支店	16 人
9/5	あづま袋ワークショップ　会場 えこずクラブ インスタグラム	209 人（視聴数）
9/5	あづま袋ワークショップ　会場 えこずクラブ インスタグラム	148 人（視聴数）
9/7	あづま袋ワークショップ 会場 ゼスト御池（日々是好日～今日も環境に良い一日を～）	35 人
9/11	レジ袋有料化とごみ減量の啓発　会場 イオンモール京都五条	80 人
9/16	レジ袋有料化とごみ減量の啓発　会場 ローソン南区役所前店	34 人
10/21	あづま袋ワークショップ　会場 ひと・まち交流館 京都	10 人
11/7	あづま袋ワークショップ　会場 エコセン	47 人
12/6	梅小路キッズアートキャンパス（内容：あづま袋ワークショップ） [動画配信：1/28-3/31]　会場 オンライン出展及び動画配信	13 人 （動画視聴数 105）
12/20 ～2/28	京都環境フェスティバル（団体の取組紹介を掲載） 会場 オンライン出展	

◇ 2R文化発信事業
「コロナ共生社会のライフスタイル」インタビュー

第１回	大阪商業大学准教授、NPO 法人プロジェクト保津川代表理事 原田禎夫 氏
第２回	京都府立大学教授　宗田好史 氏
第３回	大阪ごみ減量推進会議　北井弘 氏
第４回	京都大学地球環境学堂准教授　浅利美鈴 氏
第５回	認定 NPO 法人　気候ネットワーク事務局長　田浦健朗 氏
第６回	エコネット近畿　事務局スタッフ　正阿彌崇子 氏

◇ 企業向け講座（参加者数：560 名、内視聴数 495）

9/5	食べ物を捨てたくない ～常識にとらわれない「佰食屋」が目指すもの～ 講師 中村朱美 氏 (株)minitts 代表取締役 佰食屋オーナー 会場 京都経済センター＆動画配信（10/7～13）	36 人 440 人 （視聴数）
12/2	災害廃棄物と BCP ～事業を継続するために～ 講師 浅利美鈴 氏　京都大学大学院地球環境学堂准教授 野口礼人 氏　応用地質（株）地震防災事業部 会場 京都経済センター＆オンライン開催	29 人 （会場 14 人、オンライン 15 人） 55 人 （視聴数）
1/26	サーキュラーエコノミー　～海外の動向、日本の動向～ 講師 栗生木千佳 氏（公財）地球環境戦略研究機関 研究員	55 人

◇ こども向け講座（参加者数：174 名）

8/19	あづま袋ワークショップ 講師 めぐるくん推進友の会、同志社えこずクラブ 会場 円町児童館	60 人
10/31	紙漉きワークショップ 講師 めぐるくん推進友の会 会場 さすてな京都	48 人
1/9	あづま袋ワークショップ 講師 めぐるくん推進友の会、同志社えこずクラブ 会場 エコセン＆オンライン開催	51 人
3/21	あづま袋ワークショップ 講師 めぐるくん推進友の会 会場 さすてな京都	15 人

◇ 市民向け講座①（参加者数：693 名）
「ふろしきエコバッグを持とう！」

6/6	会場 出町桝形商店街	94 人
6/8	会場 イズミヤ八幡店	42 人
6/10	会場 イズミヤ大久保店	68 人
6/20	会場 新大宮商店街事務所	38 人
6/27	会場 パセオ・ダイゴロー	97 人
6/30	会場 ラクト山科 音の広場	115 人
7/13	会場 第一生命保険（株）	16 人
9/7	会場 ゼスト御池	67 人
9/11	会場 イオンモール京都五条	80 人
9/16	会場 ローソン南区役所前店	34 人
11/25	会場 立命館大学	42 人

※一部、寄付金事業として実施

◇ 市民向け講座②（参加者数：53 名）
「落ち葉たい肥で生ごみコンポスト」

7/17 ～12/31	生ごみたい肥の取組とアンケート回答 会場 各家庭	30 人
11/11	講座 会場 京都経済センター	23 人

◇ フェス開催（参加者数：222 名）

9/7	日々是好日 ～今日も環境に良い一日を～ 会場 ゼスト御池	222 人

■は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。
■は来場実施。　■はリアルタイム配信。　■はオンデマンド配信。　■は来場実施と配信を並行開催。

京のアジェンダ21の推進

当協会は「京のアジェンダ21フォーラム」の事務局を担っています。同フォーラムは、１９９７年に策定された持続可能な社会に向けた京都市の行動計画「京のアジェンダ21」の推進組織で、市民・事業者・行政が参画するパートナーシップ組織です。

２０２０年度は、

①２０５０年までのＣＯ$_2$排出量正味ゼロの実現に向けた情報発信等

②再生可能エネルギーの普及拡大

③企業等の環境活動促進・支援

等に取り組みました。

①については、京都市地球温暖化対策条例改正や京都市地球温暖化対策計画〈２０２１―２０３０〉について動画配信とワークショップを開催し、持続可能な京都市の将来像について多くの意見を集め行政にフィードバックしました。

②については、京エコロジーセンターでの電力調達を再生可能エネルギー１００％へ切り替え、京都市所管の公共施設として初めて再エネ１００％を達成しました。この事例をモデル事例として、企画展とミニセミナーを開催し、市民・事業者へ「再エネ電気を使う」ことを分かりやすく伝えることができました。

③については、従来、複数の事業者がチームになって保育園・小学校等に環境出前授業に行く活動をコーディネートしていましたが、コロナ禍のため実施できませんでした。里山保全の活動については、貫名涼氏（京都大学大学院地球環境学堂助教）の指導のもと、左京区岩倉「わきの山」にあるチマキザサの保全を中心にした里山保全作業を、６回実施しました。

↑10/10　京都の未来について議論するワークショップ（オンライン）

↑1/30 わきの山での里山保全活動（竹の伐採）

↑12/15 SDGsボードゲーム全国版の体験

◇ 気候危機の現状や脱炭素化に資する取組、制度等に関する情報の発信

		時間	視聴回数
9/18	「京都市地球温暖化対策条例」の改正骨子（案）について（簡易版）	3分 7秒	211
9/25	「京都市地球温暖化対策条例」の改正骨子（案）について（もっと知りたい人へ）	9分 21秒	185
1/25	京都市地球温暖化対策計画＜ 2021-2030 ＞へのご意見を募集しています	6分 46秒	128
1/28	京都市地球温暖化対策条例の概要	4分 59秒	49

■は来館実施。
■はリアルタイム配信。
■はオンデマンド配信。
■は来館実施と配信を並行開催。

◇ 2050年までのCO$_2$排出量正味ゼロの実現について考えるワークショップの開催

7/29	学習会「脱炭素社会に関する無作為抽出型の市民会議について」 講師 三上直之 氏 北海道大学　会場 エコセン、オンライン	19 人
10/10	京都の未来について議論するワークショップ 講師 田浦健朗 氏 気候ネットワーク　会場 オンライン	6 人
12/15	同志社大ワークショップ（SDGsボードゲーム全国版の体験） 講師 杉田博幸 氏 SDGs サポーターズ、片山智子 氏 富士ゼロックス 会場 同志社大学新町キャンパス	12 人
1/12	同志社大ワークショップ（グループワーク） 講師 京都市地球温暖化対策室　会場 同志社大学新町キャンパス	10 人

◇ 電力の再生可能エネルギー100%達成に関連した京エコロジーセンターでの情報提供

11/1～ 11/30	企画展「お家でもはじめよう！ 再生可能エネルギー100%展」 会場 エコセン	―
11/23	お家でもはじめよう！ 再生可能エネルギー100%展」ミニセミナー 講師 木原浩貴 氏 たんたんエナジー（株）、 河合要子 氏 京都市地球温暖化対策室 会場 エコセン、オンライン	15 名 （会場 7、オンライン 8）

講師等の派遣

当協会では、外部でのセミナーやシンポジウム等に、環境教育・環境学習施設運営・ボランティア・SDGs・ごみ減量等をテーマとした講師を派遣しています。

２０２０年度は、ボランティアコーディネーションやＳＤＧｓ、そしてコロナ禍における施設運営や環境教育について、講演や事例発表を行いました。

◇ 講師派遣

日時	事業名	主催
9/7 ～9/8	「ボランティアコーディネーション力検定」直前研修（大阪会場）講師派遣	日本ボランティアコーディネーター協会
11/2	大同生命保険（株）社内会議「SDGsの達成に向けて～今、我々ができること～」	大同生命京都支社

◇学会等での発表、研究会・実行委員会等への参画実績

実施日	事業名	主催
8/22 ～8/23	日本環境教育学会「新型コロナウイルスに対応した環境教育の可能性－オンライン技術の活用法を探る」（口頭発表）	日本環境教育学会
9/6	ICOM京都大会１周年記念シンポジウム「SDGsと博物館」（パネリスト）	ICOM日本委員会、日本博物館協会、京都国立博物館
9/18	廃棄物資源循環学会・環境学習施設研究部会「環境学習フォーラム～施設のコロナ感染対策～」（事例紹介）	廃棄物資源循環学会
12/14	GCPワークショップ「ゼロカーボン×デジタル：ポストコロナ時代の都市の脱炭素」（パネリスト）	グローバル・カーボン・プロジェクト（GCP）つくば国際オフィス、フューチャー・アース日本ハブ、広島大学、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN）
12/2 ～12/12	清里ミーティング2020（オンラインセッション参加）	（公社）日本環境教育フォーラム
12/20 ～2/28	京都環境フェスティバル2020（オンラインブース展示）	京都環境フェスティバル実行委員会
通年	ボランティアコーディネーション力検定試験（委員会への参画）	（NPO）日本ボランティアコーディネーター協会

↑ICOM京都大会1周年記念シンポジウム「SDGsと博物館」に当協会職員がパネリストとして登壇（9/6）

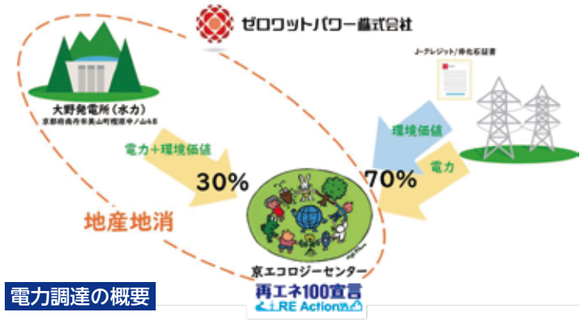
京エコロジーセンターで再エネ100％達成

２０２０年度、エコセンは京都市所管の公共施設として初めて、使用電力の「再生可能エネルギー１００％」を達成しました。

当協会は、「再エネ１００宣言 RE Action」の参加団体として、団体運営に係る使用電力を１００％再生可能エネルギーに転換することを目指してきました。

当協会は、エコセンの指定管理者として、館の電力調達を２０２０年10月、ゼロワットパワー(株)の「再エネ１００％プラン」へ電力を切り換え。同社が供給する再生可能エネルギーの一部は、京都府大野発電所（南丹市美山町）の水力発電による電気であり、京都府内での地産地消を実現しています。

当協会では、このエコセンでの取組をモデル事例として、「再エネ電気を使う」ことを市民・事業者等にわかりやすく伝え、さらなる行動の輪を広げていきたいと考えています。



↑エコセン屋上の太陽光発電システム

発行物一覧

当協会が２０２０年度に発行した広報物をご紹介します。

◆広報誌「えこせん」

読者が家庭でエコな暮らしを意識・実践し、エコセンへ来館するきっかけをつくるために、広報誌「えこせん」を年間で６回発行しました（各５５００部）。発行した広報誌は、エコセン館内や区役所、図書館、児童館、京都市動物園等、市内各所に配架しています。

広報誌のコンセプト「京のくらしと人とエコ」を意識した、読みやすい誌面づくりを行い、家庭で取り組めるエコライフの紹介のほか、京エコロジーセンターのイベントや施設について紹介しました。

◆環境副読本

地球温暖化をはじめ幅広く環境問題について学べる環境副読本（小学４年生用、５年生用、中学生用）を作成し、京都市立すべての小学校、中学校および義務教育学校等に配付しました。

◆情報誌「こごみ日和」

ごみ減量につながるライフスタイル転換のヒントや、京都市ごみ減量推進会議に関わる各団体の活動報告等を掲載した情報誌を、年４回発行しました（各３０００部）。

◆情報誌「あじぇんだ」

京のアジェンダ21フォーラム会員及び市民、事業者などに対して、世界の動きや「京のアジェンダ21」の推進について発信する情報誌を、年１回発行しました（１０００部）。

◆エコ学区かいらんばん

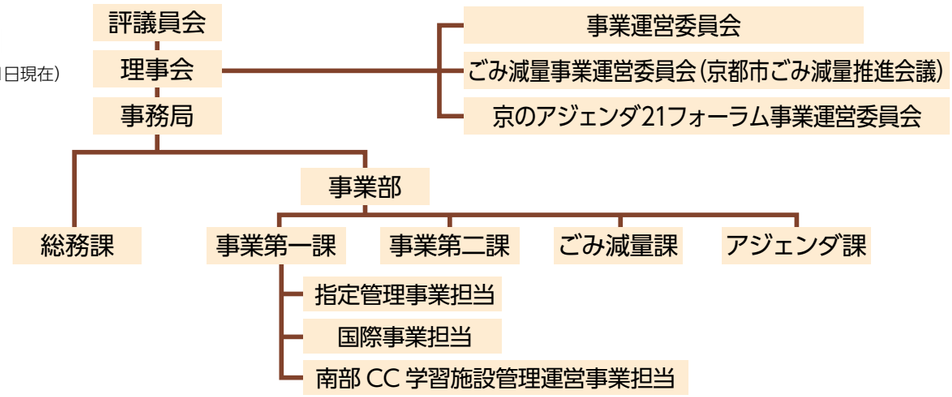
京都市内の各地域で実施されているエコ活動を紹介する８ページの冊子を、５４８００部発行し、京都市内の全戸に回覧しました。

◆啓発冊子

市民の環境意識を高めることを目的に、啓発冊子を７０００部発行しました。

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 事業運営体制

◇組織図
（2021年3月31日現在）



◇役員名簿
（敬称略・順不同・2021年3月31日現在）

役　職	氏　名	所属・役職
理事長	高月　紘	京都大学 名誉教授
副理事長	新川　達郎	同志社大学大学院総合政策科学研究科 教授
専務理事	田中 ひづる	公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 事務局長
理　事	枚本　育生	特定非営利活動法人 環境市民 代表理事
	田浦　健朗	特定非営利活動法人 気候ネットワーク 事務局長
	橋本　直子	株式会社 Hibana 代表取締役
	花田眞理子	大阪産業大学大学院 人間環境学研究科 教授
	久山喜久雄	フィールドソサイエティー 代表
	山中かおり	京都市環境政策局地球温暖化対策室担当部長
監　事	野村 克章	税理士
	水口 重忠	元京都市伏見区長

役　職	氏　名	所属・役職
評議員	浅利　美鈴	京都大学 地球環境学堂 准教授
	市川　智史	滋賀大学 環境総合研究センター 教授
	中田富士男	京都市ごみ減量推進会議 委員長
	永橋　爲介	立命館大学 産業社会学部 教授
	長屋　博久	有限会社 村田堂 取締役
	原　　強	京都循環経済研究所 所長
	粂　　善子	有限会社 思風都 代表取締役会長
	周　　瑋生	立命館大学 政策科学部 教授
	田中　　克	京都大学 名誉教授
	安部　孝幸	株式会社 京都銀行 公務・地域連携部 観光・地域活性化室長
	南山　泰宏	京都教育大学環境教育実践センター 教授

◇職員数
（2021年3月31日現在）

			総　務　課				事　業　部									
理事長	専務理事	事務局長	課長	事務職員	臨時職員	小　計	部長	課長	課長補佐	事業職員	事務職員	研修職員	再雇用職員	臨時職員	小計	合計
1	1	（1）	1	3	1	5	1	3（1）	2	18	1	5	0	6	36	43

※事務局長は、専務理事が事務取扱としている。また、事業課長のうち1名は、事業部長が事務取扱としている。事務取扱対象者は、（　）で表示している。

KES（環境マネジメントシステム）の取組

基本理念

京エコロジーセンターは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。

エコセンは、２００３年に環境管理規格「ＫＥＳ」のステップ２を取得しました。冒頭の基本理念のもと、館内で働く職員及び環境ボランティア全員で取り組んでいます。

２０２０年度は、次の５項目を重点テーマとして活動しました。

【取組項目】

①ＬＥＤ照明化の推進
②紙の使用量の削減
③環境啓発
④産業廃棄物の再資源化の推進
⑤生物多様性を高める活動

KES 周辺清掃で回収した落ち葉を堆肥化し、地域の緑化活動等に提供しています。

沿　革

当協会の前身である財団法人京都市環境事業協会は2001年に設立され、パートナーシップで環境学習や環境保全活動の輪を広げていくための拠点施設として、2002年に「京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）」が開館しました。

京エコロジーセンターは、1997年に「地球温暖化防止京都会議（COP3）」が開催されたことを記念して開設された施設であり、協会は同センターの管理運営を通して、市民の皆さまとともに歩んでまいりました。

2014年には「公益財団法人京都市環境保全活動推進協会」へと改称し、2019年には協会と京都市ごみ減量推進会議、京のアジェンダ21フォーラムの３団体が組織統合しました。

これからも持続可能な社会の実現を目指して、国内外で、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的行動による地域社会づくり寄与できるよう、さらなる歩みをすすめていきます。

協会の歩み（概要）

令和2年 2020
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、
4月8日から5月17日まで臨時休館

令和元年 2019
京都市南部クリーンセンター環境学習施設「さすてな京都」開館（10月6日）
京エコロジーセンターの開館以来の来館者数が150万人を達成（9月10日）
1.5℃を目指す京都アピール（IPCC第49回総会京都市開催記念シンポジウム脱炭素社会の実現に向けて／5月11日）
京都市ごみ減量推進会議、京のアジェンダ21フォーラムと組織統合（4月1日）

平成30年 2018
京のアジェンダ21フォーラム設立20周年

平成29年 2017
持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言
（京都議定書誕生20周年記念「地球環境京都会議2017（KYOTO+20）」）
京エコロジーセンター指定管理者を受任（第４期）

平成28年 2016
京都市ごみ減量推進会議設立20周年

平成27年 2015
国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）にてパリ協定採択
協会中長期計画策定

平成26年 2014
京エコロジーセンターの開館以来の来館者数が100万人を達成（7月18日）
公益財団法人京都市環境保全活動推進協会に改称（4月1日）

平成25年 2013
京エコロジーセンター指定管理者を受任（第3期）

平成24年 2012
京エコロジーセンター開館10周年（4月21日）

平成23年 2011
改正京都市地球温暖化対策条例施行（4月1日）
京エコロジーセンター第2期中長期計画策定（3月）

平成21年 2009
京エコロジーセンター指定管理者を受任（第2期）

平成18年 2006
京エコロジーセンター指定管理者を受任（第1期）

平成17年 2005
京エコロジーセンター中長期計画を策定
京都市地球温暖化対策条例施行（4月1日）
京都議定書発効（2月16日）

平成14年 2002
京エコロジーセンター開館（4月21日）
京エコロジーセンターの運営開始（4月）

平成13年 2001
京エコロジーセンターの環境ボランティア養成を開始（9月）
財団法人京都市環境事業協会設立（2月）

平成12年 2000
建設工事着工
環境学習・エコロジーセンター（仮称）事業検討委員会、企画委員会を設置

平成11年 1999
環境学習・エコロジーセンター基本計画を策定

平成10年 1998
環境学習・エコロジーセンター（仮称）基本構想策定懇話会を設置
京のアジェンダ21フォーラム設立（11月）

平成９年 1997
国連気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）にて京都議定書採択
京都市が「京のアジェンダ21」を策定

平成８年 1996
新京都市環境管理計画策定（COP記念センター構想）
京都市ごみ減量推進会議設立（11月）

平成７年 1995
国連気候変動枠組条約第1回締約国会議（COP1 ベルリン）
京都市廃棄物減量等推進審議会
（市民・事業者・行政3者協働のごみ減量の取組の必要性を位置づけ）

平成６年 1994
京都市一般廃棄物処理基本構想策定
（ごみ問題の学習拠点施設の必要性を位置づけ）

平成４年 1992
国連環境開発会議（地球サミット リオデジャネイロ）

中長期計画

— 協会が目指すもの —

環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与すること。

そのための
ミッション・ビジョンに
基づく事業取組と
主な方向性の関連一覧

事　　業	主な方向性
(1) 環境意識の普及、啓発に関する事業	①地域社会との連携を深める
(2) 環境情報の発信事業	⑥発信力の強化
(3) 環境保全に関する調査、研究に関する事業	⑤環境学習ツール・プログラム開発力の強化
(4) 環境教育及び人材育成に関する事業	③人材育成
(5) 環境保全のための市民、事業者等との連携、支援に関する事業	②パートナーシップをこれまで以上に
(6) 環境意識の向上のための国際的な連携、支援に関する事業	①地域社会との連携を深める
(7) 環境保全活動に関する施設の管理運営	⑤環境学習ツール・プログラム開発力の強化
(8) その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業	

2020 達成目標 第1フェーズ

1 地域社会との連携を深める

【達成目標】
協会は様々なテーマ・関わり方で、地域で活躍する団体との協力関係をつくり、地域社会の特徴・生活圏・課題に沿った各地域拠点での主体的な「環境に配慮した地域活動」が、モデルとして実験され継続実施している。

2 パートナーシップをこれまで以上に

【達成目標】
協会の様々な事業が、パートナーシップ型で推進され、多くのパートナーとの関係性が構築されている。また、組織の経営・運営にもかかる新しいパートナーシップ型のモデルができている。

3 人材育成

【達成目標】
協会は、人材育成のステップ「知っている人→伝える人・動く人→動かす人・つなぐ人・しかける人」のなかで、ボランティア事業としては「知っている人」、「伝える人・動く人」を育てることを重点化している。また、地域において「動かす人・つなぐ人・しかける人」の人材育成を図るため、必要なプログラムを整えている。

4 京都における環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及

【達成目標】
京都におけるパートナーシップによる気候変動対策・都市型環境教育推進をはじめとした様々なローカルモデルが日本国内の他の地域だけでなく、アジアをはじめとした世界でも展開されている（少なくとも1か国以上での展開）。協会はそのコーディネートの中核として、京都の各種団体のノウハウを活かし、世界へ発信する役割を担っている。

5 環境学習ツール・プログラム開発力の強化

【達成目標】
プログラム開発にあたっては社会のニーズや対象者の発達段階を踏まえ、魅力あるテーマ・内容のプログラムを開発し、実施している。また地域へのアウトリーチを促進し、地域における人材育成を進めるために、環境分野だけでなく様々な団体とのパートナーシップにより、それぞれの地域や対象にあったモデルプログラムを開発し、実施している。

6 発信力の強化

【達成目標】
センター事業はもちろん、それを包括して「協会」としての事業や業績を広く周知するための体制（人、ソフト、ハードなど）が整っており、効果的な情報発信（必要な人に、必要なタイミングで、必要な量と質の情報を、発信）ができている。これにより、協会としての新たな事業連携先や顧客になり得るところに情報が発信され、関係性が構築されている。

2025 達成目標 第2フェーズ

1 地域社会との連携を深める

【達成目標】
協会が様々なテーマ・関わり方で、地域で活躍する団体との協力関係をつくり、地域社会の特徴・生活圏・課題に沿った各地域拠点での主体的な「環境に配慮した地域活動」をつくるノウハウが、京都市以外にも提供できるようになっている。

2 パートナーシップをこれまで以上に

【達成目標】
環境分野の活動における中間支援組織の役割を担っており、様々な主体を適切につなぎ、パートナーシップ型の事業展開を支援している。これにより、京都の中での様々なパートナー同士のネットワークを形成し、京都の環境ソーシャルキャピタルを醸成・向上させる役割を担っている。

3 人材育成

【達成目標】
2020 年までに整えたプログラムをもとに、「動かす人・つなぐ人・しかける人」を育てるためのモデル事業が複数地域において実施されている。

4 京都における環境保全活動・環境教育のノウハウを全国・世界へ波及

【達成目標】
京都の環境保全活動・環境教育のノウハウが協会において整理され、協会を通じて国内外で応用できる体制が整っており、アジアをはじめとする世界からも注目される存在となっている。

5 環境学習ツール・プログラム開発力の強化

【達成目標】
2020 年に引き続き、社会のニーズや対象者の発達段階をふまえ、魅力あるテーマ・内容のプログラムを開発し、実施している。また地域へのアウトリーチを促進し、地域における人材育成をより進めるために、これまで以上に幅広い対象にあわせたモデルプログラムを開発し、実施する。さらに開発・実施の過程で得たノウハウを京都内外へ広く発信することで対価を得ることにつなげる。

6 発信力の強化

【達成目標】
「情報を発信する」ことで、様々な人・組織の共感・信頼を得て、その協力の中で、より質の高い事業を展開することができている。
（新たな事業分野に取り組むことができている。／これにより、財源の多様化が進み、協会の自立性が高まっている。）

講師派遣／コンサルテーションのご案内

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会は、2001 年の設立以来、

- 環境学習施設「京エコロジーセンター」「さすてな京都」の管理運営
- ボランティアの養成・マネジメント
- 地域と協働したまちづくり支援

等の事業を手掛けてまいりました。

当協会は、20 年間にわたり蓄積してきた経験とノウハウを生かし、**環境を切り口にした研修・セミナー・シンポジウム等へ職員を派遣しています。**

［対応できる講演等テーマ例］

地球温暖化防止／気候変動	生物多様性	ボランティア
省エネルギー／再生可能エネルギー	環境教育／ ESD	企業と NPO の連携・協働
ごみ減量	SDGs	地域コミュニティとの環境活動の進め方

［これまでの講師実績例（敬称略、順不同）］

- 社内職員研修「SDGs の達成に向けて」（大同生命保険株式会社）
- マイクロプラスチックに関する講演（生活協同組合コープこうべ）
- 環境教育論（京都教育大学）
- 環境教育プログラム企画の手法（淡海環境保全財団）
- 博物館等施設ボランティアの養成とマネジメント（国立民族学博物館）
- 新任ボランティアコーディネーター基礎研修（大阪ボランティア協会）
- ボランティア基礎研修（奈良文化財研究所）
- 施設ボランティア入門講座（大津市生涯学習センター）
- 生物多様性の取組にかかるワークショップ（京都市西京区洛西支所）
- 京都市環境基本計画改定にかかる市民ワークショップ企画・実施（京都市環境政策局）
- JICA 研修等への講師派遣

（エネルギー政策、廃棄物管理、環境教育、ボランティアマネジメント等に関する講師派遣）　他

また、下記についてコンサルテーションを行い、事業の推進を支援することができます。

環境学習施設の運営	市民活動団体の支援・ネットワーク化
展示の開発	ボランティア等市民参画の仕組みづくり

詳細は、HP のメールフォーム・電話等にて
お気軽にお問い合わせください。

ご寄附について

2019 年度から 2020 年度にかけて、当協会の取組に対し、下記の企業・団体・個人の皆様よりご寄附をいただきました。厚く御礼を申し上げます。

イズミヤ 株式会社様
イオンリテール株式会社様
株式会社光洋様
市縁堂 2019 実行委員会様
環境漫画家 ハイ・ムーン様

当協会では、私たちの持続可能な社会づくりに向けた取組に共感いただいた方々とともに歩んでいくため、個人・企業・団体様等からご寄附という形での支援を受け付けております。

公益財団法人である当協会へのご寄附は、税制上の優遇措置があります。（所得税法施行令第 217 条「特定公益増進法人」）

ぜひご支援とご協力をお願いいたします。詳細は、HP のメールフォーム・電話等にてお気軽にお問い合わせください。

インフォメーション

公益財団法人
京都市環境保全活動推進協会 HP
URL：https://keaa.or.jp/

●住　所　〒612-0031
京都市伏見区深草池ノ内町13　京エコロジーセンター内
☎075-641-0911　FAX 075-641-0912

KES ステップ２登録

京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター）

●開館時間　9時～21時（1・2階展示は17時まで）
●休館日　木曜日（祝日の場合は翌平日）

●アクセス　【京阪電車】
藤森駅：下車、西へ徒歩約５分
【地下鉄・近鉄】
竹田駅：下車、東へ徒歩約12分
【市バス】
105・南５・臨南５・南８
「青少年科学センター前」
下車、南へ徒歩約２分

本報告書に掲載した情報以外にも様々な情報を発信しています。

●京エコロジーセンターWEBサイト https://www.miyako-eco.jp
- ▸ブログ　https://www.miyako-eco.jp/blog/
- ▸Facebook　https://www.facebook.com/miyakoeco
- ▸Twitter　https://twitter.com/miyako_eco
- ▸YouTube

↑エコセン YouTube では、環境に配慮した料理レシピの動画も紹介しています。

●さすてな京都　https://sustaina-kyoto.jp/
●エコ学区サポートセンター　https://www.ecosien.org/
●京都市ごみ減量推進会議　https://kyoto-gomigen.jp/
●京のアジェンダ 21 フォーラム　http://ma21f.jp/

2020
事業報告書

公益財団法人
京都市環境保全活動推進協会
〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13　☎ 075-641-0911　FAX 075-641-0912

2020年度、当協会の取組に対し、上記の皆様よりご寄附をいただきました。
厚く御礼を申し上げます。

●用紙：適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
●インキ：環境配慮型インキ（植物油インキ・ノンVOCインキ）
●印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷

●発行 公益財団法人京都市環境保全活動推進協会　2021年10月